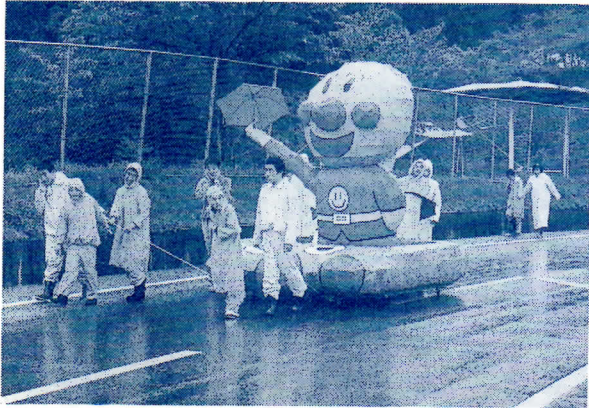




# お ち ほ

第22号 平成7年6月1日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

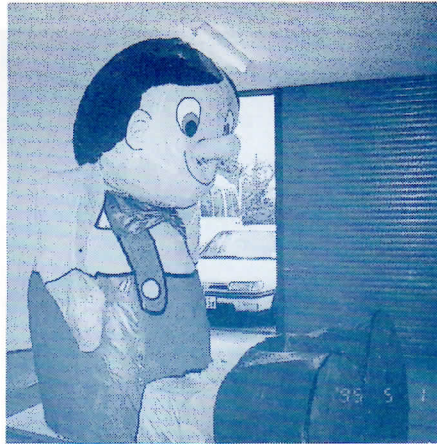
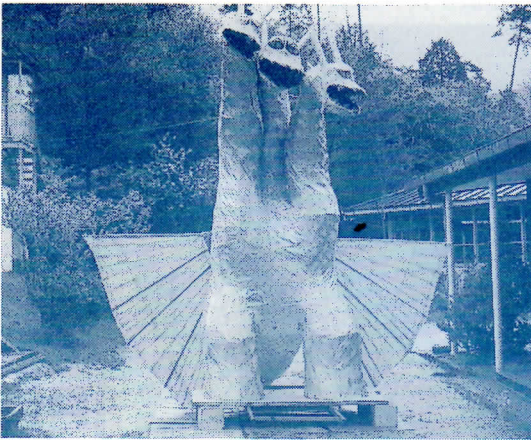


祝

# 45

周年

# 無情にし……雨



毎年行われるお神輿を作って、白山神社へ参詣する恒例の氏神祭がやってきました。しかも、今年は落穂寮45周年ということで、よりいっそう力を入れて取りかかってきました。A棟では、昨年のアンパンマンからさらにパワーアップしたアンパンマン号に変身し、B棟は、とてもバランスのとれた大きくて迫力のある立派なキングギドラに仕上がりに、C棟は、鼻が伸び縮みするという工夫をこらしたかわいいピノキオになり、毎晩氏神祭にむけて、みんなで協力し合ってすばらしい力作になりました。(一麦寮は桃太郎・竜でした)

・・・が、しかし、前日から雨が降りつづき、当日も朝からあいにくの雨にみまわれ、夜遅くまで頑張って取り組んできた努力もむくわれず、結局、氏神祭は中止になり、お神輿を披露することができませんでした。

このままでは納得できない、そう思ったアンパンマン号は、雨にも風にも負けず、傘をさしながら東寺公園まで歩きました。



# 祝 杉 山 寮 開 寮



新しくできあがった杉山寮

えて生活・作業を実施するつもりでしたが、現実には職員の人數からも、秋口までは朝起きれば草刈りをし、(合間を見ては歩行に出かけた、しいたけ栽培を再稼働したけれど)、冬期は朝起きれば雪かきをするといった日々となり、なかなか開寮後のことを考えるところまでいきませんでした。しかし、杉山寮の建設そのものを進めるについては、元地区住民、現地区住民、県・町行政関係の方々と金品寄附のみならず、きもち、といふ大きなご支援をいただきました。又、杉山寮職員採用についてもいろいろな方々の支援を受けスムーズに決定したところです。制度にはない、文学として現われにくい、このきもちを大切に、杉山寮を生活・作業ができる場所とする、社会参加への足掛かりになります。どうか開寮以後もご支援、ご協力の程、お願い申し上げます。

## 杉山寮開寮に向けて

杉山寮々長 橋本 浩明

自然の豊かな杉山の地に生活・作業の場を確保しよう、といったことから平成元年十月に民家を購入し生活をつくってきた訳ですが、自然環境に「ぜん」に適合してゆく寮生さんたちを見て、普通でもなく、寮生さんというところが一見でもないことのようなのですが、現実社会において実はたいへん難しいこととができていないのでは、と考えさせられました。この人たちの暮らし・作業を、この杉山の地を生活・作業ができる場所にした、社会参加への足掛かりとしたい、といったことから施設建設計画を進めてきました。そして、昨年九月に杉山寮建設に着工することができ六月一日付で開寮する運びとなりました。事前準備ということから昨年夏より杉山寮開寮後のことを考



推の木会杉山の家

# 『家』

中嶋 貴一郎

今から8年前、一人の寮生が落穂寮を退寮していった。わたしは複雑な思いで見送った。これも今も思い出される。その人は寮後自宅に帰る近くの作業所に通うことが決まっていた、みんなで祝福をして送り出したので、そこに至るまでのことを振り返ると、また、今後のことを思うと複雑な気持ちにならざるを得ませんでした。

その人は、家庭での生活が難しく、他の人との意志疎通もうまくいかず、しばしばお母さまに当たり散らすと言った状態で、落穂寮に入寮して来ました。寮での生活の中で精神的にも落ちつき、自立した生活が送れるようになり、家に帰っても大丈夫と思える状態になった時点で、家庭に帰ることをすました。しかし、お母さまは、家庭に引き取ることに難色を示され、そして、一言いわれました。

「もし、この子が家庭や作業所でうまくいかなかったとき、この子

活の時間の規律によって個人の人權を守っているのだろうか、又、集団生活の中で、集団から解放された安堵感の中で、自分を取り戻す空間、プライベートを守る空間が保障されているのだろうか。自分自身、個人の人權を無視していたよに思えて恥かしい。やはり寮生活を改善して、いかに職員の家務が大切である。

個人の尊厳とプライベートを守り、ゆとりのある、個人にあった空間を大切にすることを職員側の姿勢が重視されることを思う。これからは定期的な会議を持ち、職員は施設化の意識を高めて、寮生にとって望ましい施設を作り上げていく為に、一人一人の生命力、成長力がより生き生きと発現するようにより援助していき、職員が一人となつて前に進むことが大切であると思う。

- ・人の痛みがわかる人間
- ・人の温かみを感じられる人間
- ・人と人とのふれあいを大切に人々を愛する気持ちをお忘れすに

## がんばろう!!

ほどこへ行けばいいでしょうが、落穂寮へは二度と帰って来れないのでしょ。」

この言葉は、私には胸に突き刺さる思いの言葉でした。この人は18歳を越えていたのです。児童福祉法においては入所できる年齢は18歳までなのです。18歳を過ぎると、一度退寮すると再度入寮できないという制度の壁が大きく

立ち塞がるのです。私たちは、何度その壁に泣かされたことでしょうか。

今まで多くの寮生を送り出して来ましたが、そのつどに、もう二度と手を差し伸べるのでできない施設として、自由に入所のできる寮を何処で実現しようかとしょ。

私は日々、施設は入所しなくとも「家」であり「ふるさと」でありたいと思いつけて来ました。地域福祉が叫ばれている昨今ですが、知的ハンディをもった人達にとり地域や家庭がまだまだ住宅地と違いがたまたま状況の中で、施設がその役割を担うべきでは、なかと思つています。利用したい人が自由に利用できる、一度社会へ出た人が再び施設を頼つて、それに答えることも施設側の役割であると思つています。

落穂寮の成人施設への転換は、知的ハンディをもった人達のためのセンター「家」としての役割の中で、社会に対して積極的にアプローチして行く大きな一歩だと考えています。

# 集団生活の中から

中尾 雅則

「成人施設化を考える」と言われても実際、学籍生と生活科で成人（年長者）の生活科では、生活の流れも職員の動きも異なるのが現実である。その事に関して、現場の職員も、その事に限らず、何をどう考えなければよいかどうと混乱しているように思えます。今の寮生活の事で精神の日々が続いているのが現状です。又、年長の寮生、年少の寮生がいる集団生活の中では、年少の寮生も年少の寮生も関係なく接している現状が成人施設化を考えるとよく現れているように思えます。やはり職員の成人化を考えると共に集団生活の見通しが大切であると思う。集団生活の中では、時間という規律に守られ、職員も時間と、い世界の中で動かされている。時間にはばられ、集団を重視し、個人を軽視しているのではないだろうか、個人の生活のリズムに合わせる、職員が対応しているのだろうか、生

# Dream Come True 成人施設化を考える

## 成人施設化への願い

秋岡 通子

落穂寮が創設された時代と現在を比較してみると、福祉への人々の考えは一般化され、施設に対する

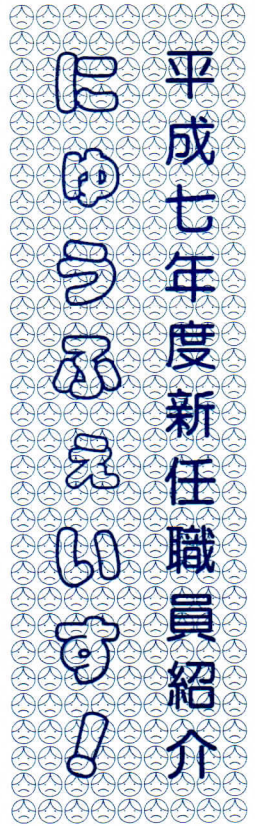
ニーズもずい分と変化してきました。施設の中のノーマライゼーションが相変わらず欠けなくなりました。しかし、相変わらず児童施設や老人施設などと分類され、年齢制限があります。その結果、同年代ばかりが集まるといふ基本的な歪みもノーマライゼーションとは程遠い生活になってしまつています。知的障害のある人々にあつても、その発達程度に関係なく、生活年齢だけで分けてゆきます。その年齢制限ではより特別な場合以外過剰と共に児童施設には居られなくなり、年超超過者が過半数を越えている落穂寮の現状を考えると成人施設化はさげられない事です。生活実態、居住空間からみると、成人になつた人達が生活してゆくには今のままでは少々窮屈です。

成人施設化がさげられないならば、「施設だから、こんなものにしてよ。」で終らず、より良いものにしてゆきたいと思つてます。成人としての個人のプライベートや選択の自由などまだまだ不十分なものが多くではないでしょうか。管理する側から都合の良い施設ではなく、生活のみとして利用する人達の立場でみた時に快適なもの

であるべきです。自由と自分勝手を混同しては困りますが、規則とおおではない生活があつても良いと思つてます。

食事についても、考え方の違いや生活リズムの違いを認めてゆくことと同様に、食物の好嫌いがあつて当たり前と考ええるなどが、ノーマライゼーションにつながることでないでしょうか。加齢と共に食べ物好みも変わつてゆきますが、その変化に法則はありません。ましてや、好様に法則などある訳がありません。好様とを全面的に認めるのはありませんが、誰にでもある事として、健康に暮らさなければ容認される部分はあると思つてます。人の楽しみの中、中々大きな部分を占める食だからこそ、児童施設でのような「食事指導」ではなく、楽しみと思つて、何事にも一人の成人として認められた生活の出来る施設へと成長してほしいと願つています。

# 平成七年度新任職員紹介



## 新たな出発

C棟 日下部絵里

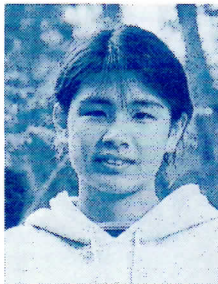


私は、高校生の時、ボランティア活動で初めて体にハンディを持った人と接し、施設で働きたいと思うようになりました。出身は岐阜の田舎なのですが、短大に入り先生から滋賀県の福祉の取り組み、施設の良さ、すばらしさを聞き、絶対に滋賀県の施設で働きたいという夢が現実となり、この落穂寮でお世話になることになりました。今はまだ始まったばかりで、何もかもが不安と重なりあっていません。しかし、援助者として、まず自分自身が自立し、寮生さん一人

ひとりであった援助をみつけ、関わっていきたいと思います。私自身の新たな出発です。これから寮生さんと共に成長していくことが出来たらいいと思っています。先生方にはいろんな失敗や御迷惑をおかけする事と思いますが、自分らしさを精一杯発揮して頑張りたいと思います。よろしくお願います。

## 一步一步頑張ります

C棟 阪本真理子



新学期に入ってからまだ一週間しか経っていないのに、担任という言葉がとても重く感じられ、もった

経っているような気がします。一月にここへ来てから新学期までは、あつという間に過ぎていったのに、今では不思議なくらい一日一日が確実に過ぎていきます。

初めの頃は、毎日が初めての連続でドキドキワクワクしながら、寮生を楽しんで関わっていたのに、今では、初めての連続というのとは変わらぬのに楽しむ余裕がなく、毎日、一分一秒困ってしまうことが多いです。

一つ一つの行動が自分に何かを訴えていたり、問いかけたりしているようでどう関わればいいのか考えながら生活しています。といっても、決して辛いとは思いません。遠回りはしたけれど、小学校の時から思い続けていたこの仕事にやっとなり着いたという感じで、やる気は充分です。

他の先生方はじめいろいろな事に迷惑をかけると思いますが、自分なりに悩んで一步一步頑張っていきたいと思っています。

## 施設との出会い

B棟 阿部 忍



私は、保育資格で保育所以外に様々な施設で働くことが出来るという事も知らずに、ただ子どもと関わる仕事がしたいと思い、保育者になる道を選びました。そして学校の実習を通して初めて施設と出会ったのです。実習生だったということもあつたと思いますが、日を重ねるごとに、施設での生活が、園生との関わりが、本当に楽しいと感じることが出来ました。その頃から施設で働きたいと思うようになり、この春、期待と不安を胸に秘めつつ、施設での生活がスタートしました。まだ解らないことばかりで、寮生さんとの関わりもぎこちないけれど、一日一日を大切に、私とそれぞれの寮生さんとの関係を築いていきたいと思っています。

失敗をしたり、御迷惑をおかけする事もあると思いますが、どうぞよろしくお願います。これからです。がんばります。

# ご縁があつて……

事務 青木 正江



はじめまして、私は、落穂寮にご縁があつて、事務職としてはいりました、青木正江と申します。

石部の住民で、生まれてこのかた、石部を離れたことがありません。(と言っても、一時期、柑子袋に住んでいた事がありますが……)

子供は、上が女の子で高校三年生、下が男の子で高校一年生の二人おります。

こう言いますと、年齢がわかってしまいますが、気持ちには、若いつもりですのでよろしくお願い致します。

先生方、寮生の皆さん、寮生の親御さん、と沢山の方々の顔と名前が、なかなか一致しないので、ご迷惑をお掛けする事と思ひます。

今まで、携わった事もなく、感心の無かった仕事ではありませんが、先生方の寮生に接しておられる姿

を拝見しております、私も、頑張らせていただくと思つています。

## よろしくおねがいします

B棟 徳村 修宏



はじめまして。今春、新規採用になりました徳村修宏のぶひろです。自己共に認める変人です。「おまえの

まともな部分は2割ぐらいだ。」「あなたのとぼけた雰囲気は人間

離れている。」などという批評を受けつつ、それを少し気にしつつここまでのおんきに生きてまいりました。最近ではやっぱり変わっているなあ、と実感することしばしばで、自分自身に対する人間的な

動物的な感覚を垣間見ることができようになったように思ひます。そんな自分が落穂寮で初めて体験

したことは、寮生さん達一人一人の心の中はまるで宇宙のような広がりがあるんだ、ということでした。

た。素直さを通り越して、純粋な心の宇宙を持つ人、食事はそんなにおいしく食べられるものなのかと驚いたこともあります。これら全てのことが私にとって感動であり、出会いなのです。以後寮生さん達には今は想像もつかないほどのことを学ばせていただくことになるでしょう。学ぶこと、人を信じることを大切に、精進していこうと考えます。人と人との出会いの大切さを、かみ締めることのできた新しい春の訪れでした。

## はじめの一步

A棟 森西 教子

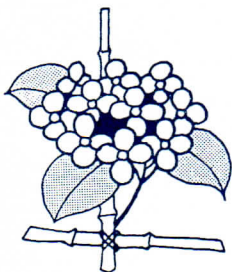


でも、保育園で仕事やりたかった私は、講義はほとんど聞いていなかったし、実習も行くまでは、資格を取得する為に行く、という思いでした。でも、実習に入り、一日経ち、二日経ち、一週間が経つと、実習が楽しくなってきました。二週間の実習期間が終わった時には、もっとここにいたい、と思う私がありました。たった二週間、私の考えは変わってしまった。何がどう変わったのか、と問われても、うまく答えることは出来ませんが、彼らの素直な心と屈託のない笑顔に引かれたことに間違いはありません。

あれから三年。やっとスタート地点に立ちました。未熟な私ですので、ご迷惑をおかけすることと思ひますが、取りあえずは、「はじめの一步。」

最初、保育園の保育になりました。私は、資格を取得する為に短大で幼児教育を専攻していました。

保母は福祉施設での仕事ということで、全く興味のなかった社会的ハンディキャップを持った人たちのことを学ぶ機会に恵まれました。



平成7年度  
落穂寮年間行事予定

- 6月  
1日 杉山寮開所式  
4日～11日 短期帰省  
4日 A棟親子合同飯盒炊爨  
17日 プール開き  
18日 昼食会  
24日 B棟くるみ組外出  
24日 A棟おやつ外出  
25日 B棟くり組外出
- 7月  
7日 七夕  
9日 スペースポ(長浜ドーム)  
23～25日 臨海学舎(和邇浜)  
日 草刈り奉仕
- 8月  
6日～20日 夏季帰省  
日 納涼祭・地藏盆  
日 SS体育大会  
25日 B棟飯盒炊爨  
31日 A棟飯盒炊爨  
日 C棟も組外出
- 9月  
日 お月見  
日 年長旅行  
9日 A棟阿星山ハイク
- 10月  
日 C棟ひまわり組外出  
日 C棟さくら組外出
- 11月  
日 落穂寮運動会  
日 京滋合同レク大会  
30日～31日 年少旅行  
29日～11/5日 秋季帰省
- 12月  
26日 SSマラソン大会  
日 夕食会
- 平成8年1月  
23日～1/ 日 冬季帰省  
24日 A棟新年会  
日 B棟新年会  
日 C棟新年会  
15日 成人式
- 2月  
3日 五施設マラソン大会  
3日 節分  
日 B棟親子旅行

18日 夕食会  
3月

お雛祭り  
学習発表会  
卒業祝賀会

22日 A棟くろうさん会  
25日～4/ 日 春期帰省

\*この他に、毎月第3日曜日に親の会を予定しています。

\*平成7年度の親の会総会では、かろうじて総会が成立するぐらいしか、保護者の出席がありませんでした。

今後、落穂寮成人化に向けて、保護者・職員・寮生が力を合わせていかななくてはなりません。何かとお忙しいこととは思いますが、積極的なご参加をお願いいたします。

以上の予定で、今年度の行事を計画させていただきました。つきましては、保護者の皆さんの参加していただく行事はもちろんのこと、そのほかの行事につきましても何かとご迷惑をおかけする事と思えますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

泉

いつもお世話になり

ありがとうございます。

これからも、よろしく

おねがいいたします。

突然、この機関誌が送られてきて、さぞ驚いておられる方もおられることと思います。逆に、今までお世話になりながら、何の通信も出さなかつた事をおわび申し上げます。

さて、今回の『おちほ』22号より、できるだけ多くの方に、このおちほ寮を知っていただくとういうことで、皆様のお手元に送らせていただく事になりました。何分不慣れな、ド素人の広報係で、とても読みづらいものとは思いますが、ぜひ、一読していただけたらと思います。又、何か御意見・御感想・叱責・苦情・その他の事がありましたら、どしどし御連絡下さい。よろしくおねがいします。

▽徐々に何かが変わっています。良い事も悪い事も含めて、確実に何かを変えなくてはいけない。そう思う今日この頃です。(木言)